

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 あんだんて			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日 ~ R7年 12月 27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21家庭	(回答者数)	21家庭
○従業者評価実施期間	R7年 12月 8日 ~ R7年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 14日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の利用児数に対して、職員の配置や体制を整えて支援が行われている。	利用児一人ひとりの特性や強みについて、職員が共通認識を持つと共に、その時の状況に応じた支援が行えるように職員間で情報共有を図っている。	保護者と連携を図ることで、ご家庭や園の様子を正確に把握し、保護者や利用児の意向に沿った支援をする。
2	季節に合った行事を親子活動に取り入れている。	親子活動を提供し、利用児と保護者で活動を体験できる場を提供している。保護者からの困りごとを聞いたり、利用児への言葉かけなどの対応の仕方を見ていただいたりする機会にもなっている。	家族ぐるみで活動に参加して体験したことを共有し、家族支援に繋げられるようにする。異年齢での交流を楽しめる活動を提供する。
3	親子活動で保護者同士の繋がりが持てている。	親子療育の場面では、職員を含め保護者間で話しができる。不定期ではあるが、保護者で話しができる場を設定し、意見交換をすることができるようしている。	定期的に意見交換ができる場を設けたり、保護者を対象に講師を招いて勉強会を開催したりしていくことを継続していく。職員の相談援助技術の向上のための研修を充実させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容にあったスペースの確保が難しい。	少人数の活動の為、活動内容を工夫する事でスペースの確保はできているが、利用人数によって伸び伸びと活動するには狭いと感じる。	活動内容や利用者人数、年齢に応じて事業所外の公共の場を利用する。また、職員配置を工夫して利用者を分け、別室で活動するなどの工夫をする。
2	日常生活の動線と見守り箇所の職員配置に難しさがある。	事業所のリフォームやバリアフリー化が難しい。	利用児の動きと活動の流れを想定し、危険を感じる場所や場面において、イラストを用いて表記をしたり、職員を配置したりして安全に十分配慮していく。
3	支援の質の向上のための職員研修の充実	職員一人ひとりが学びたいと思う研修と事業所全体の統一した研修を定期的に受けられていない状況がある。	職員の学びたい研修を適切に受けられるように組織体制を見直して時間等を確保し、様々な研修の情報収集を行う。